

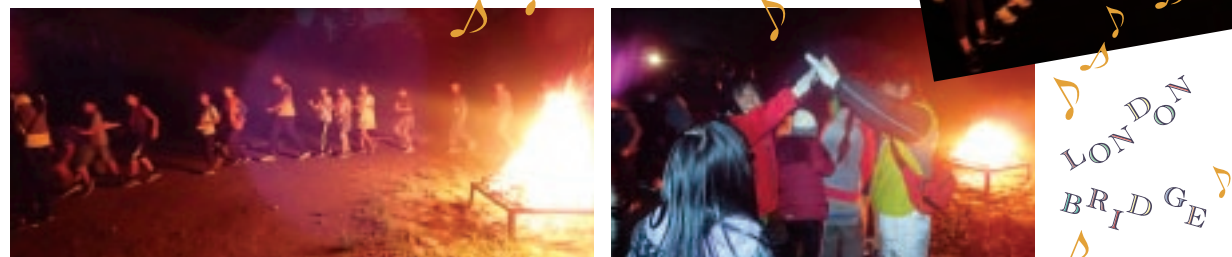
(3) 英語を使ってキャンプファイヤー

- 点火のセレモニー ※キャンプファイヤーの薪組み、進行、安全管理は職員が行う。



- 英語の歌や遊び

- ◎ ロンドン橋落ちた 歌いながら輪になって火の周りを回る → つかまった人には英語で簡単な質問をし、それに答える。
- ◎ 手遊び Sunday Monday...でSaturdayになったら避ける。
- ◎ ホーキーポーキー など



- おき火を使ってスモア(焼きマシュマロとチョコをビスケットではさんだもの)作り

この場面でも、マシュマロやビスケット、チョコレートをもらう際に

What would you like?

I'd like ~

Here you are. ...の表現を繰り返し使わせることにより、2日目の英語活動の表現にスムーズにつながるようにする。



プログラムのポイント

- 夜の森で火を囲む非日常の体験は、子供達の印象に残る活動となった。
- 英語の歌や外国の遊びなどをすることにより、子供達にとって外国の文化に触れる体験となった。
- キャンプファイヤーは多くの団体・学校が行っている活動なので、赤城青少年交流の家を利用する団体にとって、取り入れやすいプログラムとなった。

(4) 学習指導要領に対応した英語活動

7/22(日)

- 英語で自分の町を紹介しよう(ポスターセッション) 対象:6年生

- 3人1組で発表チームを8つ作る。
- 事前の課題で調べてきた、自分の住んでいる町にある紹介したいものを決める。
- 講師や班付きリーダーの助言を得ながら、チームの3人で相談し、ポスターセッションの資料とスキットを作成する。
- 4チームごとに前半、後半に分かれてリハーサルを行う。
 - ◎ 講師や班付きリーダーが発表の仕方(良い例・悪い例)についてデモンストレーションを行う。
 - ◎ 発表方法は発表役4チームに対して聞き役・質問役4チームが4回ローテーションするという方法をとる。
- 食事の時間(昼休憩)を利用し、午後の発表会に参加する保護者に対して、講師が質問のやり方を説明する。
- 保護者も交えて、前半4セッション、後半4セッションの合計8回のセッションを行う。



助言を得ながらスキット作成



班付きリーダーによるデモンストレーション



リハーサル



保護者を交えてポスターセッション



発表は4回。回を重ねるごとに上達



部屋の4カ所に発表ブース



自分の町で紹介したい場所のフリップボード

プログラムのポイント

- "I like my town."の単元をベースに、日本にきている外国人に、自分の町で有名なものを紹介するという具体的な課題を設定した英語活動である。
- ポスターセッションでは、ネイティブの講師がいることで、外国人に紹介するという活動にリアリティをもたせることができた。
- 発表の機会を増やすことが、英語を使ったやり取りを促進するために有効であることが分かった。